



4/2 中1,2年生の道コン



4/3 中3生が道コン



4/4 道コンの見直しをする



真剣に取り組む新中1年生の春期講座



道コンの結果で面談 取り組み方を指導



新学期がスタート



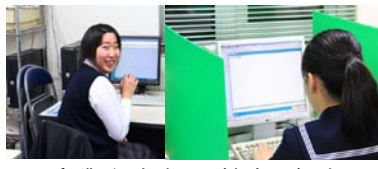
覚えなければならない事は必ず覚えましょう！
検定員の資格を取るため塾で勉強をする



6期生でKDS指導員の鈴木君。



15の春から6年、4月に夢がかなって市立病院の看護士になった佐藤奈々さん。(遠矢中→明輝)妹の春奈さんも市立看護学校の2年生でがんばっています。



看護士志望の新高1年生 目標に向かって勉強スタート



新園舎の落成を記念して園児代表とテープカットを行う関係者 (左端 岩淵君)

鉦路町に子育て支援の拠点施設完成
 つくし保育所と子育て支援センター、さらに児童発達支援センター機能も兼ね備えたセチリ太子育て支援拠点施設が完成し3月30日、関係者がそろい、園児代表と共にテープカットを行い、新園舎落成記念式典を行った。
 新しい拠点施設は1階につくし保育所と、子育て相談を受けたり、親子での遊びスペースとなる子育て支援センター、2階には障害を持つ児童の専門療育と保護者の支援を行う児童発達支援センター(愛称:のびと)を併設している。さらに屋上は、緊急時には地域の住民のために避難スペースとして開放するなど多機能型の施設となっている。(鉦路新聞より)

★3年ぶりの理科、実験・観察問題多く 全国学力テスト★
 小学6年生と中学3年生を対象にした全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)が21日あり、大きな混乱なく終了した。3年ぶりの実施となった理科では「日常生活に役立つことを気付かせる」(文部科学省)との狙いから、実験や自然現象の観察をもとにした問題が多く出た。テストを新たな学びのきっかけにしておこうと、身近な話題や漫画も登場した。全国学力テストは今回で3年連続の全員参加方式となり、国公立全校と私立の約48%の計3万388校が参加した。
 理科は3年前に初めて実施した時は抽出調査だったため、今回初めて全員が参加した。小中学校とも、全ての大問に観察や実験の過程が写真やイラスト付

きで記載された。題材は身近なテーマが目立った。中学理科では、蒸しパン作りについて書かれた「保健だより」をもとに、ベーキングパウダーの加熱で発生する二酸化炭素の体積のはかり方に関する問題が出た。気体の特性や集め方の知識を活用し、科学的な思考力を問う狙いだった。
 小学理科は、打ち水と気温の変化の実験結果から分かることを選ばせる問題や、星座観察に関する問題が出た。
 国語と算数・数学は知識をみるA問題と、活用力を測るB問題で構成した。過去の全国学力テストで課題とされた問題が集中的に出されており、国語と算数・数学では計145問中50問が該当した。
 このうち「割合の意味を理解する」という小学生の課題を踏まえた算数Bの問題では、パン屋で示さ

れた値引き割合から実際に支払うべき金額の求め方を考えさせた。
 児童生徒に身近な話題も登場し、中学国語Bでは、東京五輪・パラリンピックの組織委員会のホームページなどを踏まえて「2020年の日本はどんな社会になっていると予想するか」を記述させた。
 中学国語Aの竹取物語を題材にした問題は、かぐや姫が登場する5コマの連続する漫画と、同じ場面をの古文を比べて表現の意味を聞いた。
 各教科のテストと併せて、日ごろの学習状況などを聞いた調査には「自分たちで課題を話し合い、発表するなどの学習活動に取り組んだか」との質問が新たに加わった。自ら課題を発見し解決を図る「アクティブ・ラーニング」(能動的学習)の状況を聞くもので、文科省学力調査室の担当者は「新たな学習

び方と成績との関係関係などを分析したい」としている。
 鉦路町に子育て支援の拠点施設完成
 つくし保育所と子育て支援センター、さらに児童発達支援センター機能も兼ね備えたセチリ太子育て支援拠点施設が完成し3月30日、関係者がそろい、園児代表と共にテープカットを行い、新園舎落成記念式典を行った。
 新しい拠点施設は1階につくし保育所と、子育て相談を受けたり、親子での遊びスペースとなる子育て支援センター、2階には障害を持つ児童の専門療育と保護者の支援を行う児童発達支援センター(愛称:のびと)を併設している。さらに屋上は、緊急時には地域の住民のために避難スペースとして開放するなど多機能型の施設となっている。(鉦路新聞より)

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
休業			青陵中宿研	富原中修学旅行 30		美原中修学旅行 28	青陵中修学旅行 27						休業								休業				GW休業	GW休業	GW休業	GW休業		

携帯電話の持ち込み禁止
 連絡は塾の電話を使用して下さい。



差し入れのアメとチョコ

5月の予定

『世界によって自分を変えられないため』

「あなたがすることのほとんどは無意味であるが、それでもしなくてはならない。そうしたことをするのは、世界を変えるためではなく、世界によって自分を変えられないためである」マハトマ・ガンジー

テレビ朝日とNHKの幹部が、事情説明の為に官邸から呼び出しを受けた。

なんとも露骨なことがおっぴらに行なわれるようになってしまったものだ。

「放送法」を盾にしてテレビ局を脅かし、官邸の管理下に置く。政情不安定な独裁政権の国にはよくあることだろうが、日本は、形としては言論の自由が認められた民主主義国家の筈なのに、狡猾な方法で言論統制を行なおうとしている。

日本のメディア構造は、ものすごく歪だ。まず第一に、大手新聞社とテレビ局は、東京新聞を除いて同列の会社であり、新聞とテレビ界は、互いを厳しく批評し合うということがない。また、同じ大手クライアントからの多額の広告収入で運営されているので、産業界に対しても及び腰になる。

その上で、「放送法」という政府の鎖につながられるような法律で支配される。

5年に1回更新される「放送免許」。

放送局は、1年以上前から事情聴取の準備を進める。総務省に対して、主に①免許期間中の事業継続性、②番組の編成計画を説明し、求められた資料はすべて提出する。このように政府の管理下に置かれる放送局から、政府に都合の悪い話が出てくる筈がない。政府は、いかようにも放送局および放送局と関連の深い新聞社を脅かすことができる。彼らの免許を更新してあげる。そして、新規参入を抑えることで利益を守ってあげる。

衛星放送にしても、欧米ではチャンネル数の多いCS放送が普及していった時期に、日本だけが、チャンネル数の限られたBS放送が優位になるように導き、結果的に、BSチャンネルを運営する会社も、地上派放送局ばかりになっている。

このようにして、放送局と政府が、お互いに利用し合う関係になっている中で、先日のテレビ朝日での騒動があった。

「番組中に、古賀茂明氏が、事前に打ち合わせにないことを話し出し、古舘伊知郎氏との間で、お茶の間の皆様に対して見苦しいものをお見せしてしまったこと」に対してテレビ朝日が謝罪し、テレビ界の世話になっている人達が、古賀茂明氏批判を行っていた。「テレビで自分の意見を言えることの有り難みをわかっていない」とか、「公共の電波をプライベートに使っている」とか、問題の本質をズラして。

古舘伊知郎氏も、少し前までは「原発問題など、厳しく追求していく」などと、威勢のいいことを言っていたが、威勢のいいことを言える雰囲気が残っている時に、威勢のいい発言をすることは簡単なことだ。

その人を信頼できるかどうかは、威勢のいいことが言いにくい雰囲気になった状況で、孤立することを覚悟のうえ、言うべきことを言えるかどうかなのだ。

多くの人が簡単に同意や共感を求めて発言する。それは、人気者になるうえで得策なことかもしれないけれど、支持者の数が、その人の本当の価値を表しているわけではない。

社会の問題が複雑になっていくのは、「社会に役立つことをしたい、自分の存在価値を見いだしたい、社会を動かしたい」と前向きな気持ちを持って生きている人達が、社会に対して影響力を持つ為には多くの人に支持されること（巻き込むこと）が大事と考える傾向があるので、その分、多くの人に支持されていることや、多くの人を相手に影響を持っているように見えるもの（大衆メディア）の動向を気にして、その影響を受けやすくなってしまふことだ。

放送局を中心とする大衆メディアが、政府の管理下に置かれながら、同時に政府の庇護によって影響力を増大させているため、その影響力のおこぼれをいただくとする人がその周辺に集まりやすい。そうすると政府は、時々、その放送局を脅かすだけで、連鎖的に、間接的に、その周辺にも影響力を及ぼす。

冒頭のガンジーの言葉は、古賀氏が報道ステーションの最後の出演の時に用意していたものだが、この言葉どおり、自分の影響力によって少しでも社会を変えたいと思っている前向きで真面目な人でも、社会を変える以前の問題として、知らず知らず、政府とメディアが作るムードによって自分を変えられてしまっているかもしれないということに気を配った方がいいのかもしれない。自分のエゴの為に進んで自分を変える人はわかりやすく、後から後悔することもあまりないのかもしれないが、自分を変えられてしまっていることに気づかず、その片棒を担いでしまふことほど、悲劇的なことはないからだ。

政府は、最初から表立って、「戦争をしましょう」なんてことは言わない。「原発を動かしましょう」とも言わなかった。知らず知らず、「それもやむを得ないなあ」と思わせるように、少しずつ意識に働きかけている。

多くの人に好かれたり、拍手喝采されたりすることは、本当は人生の価値とは別のことなのだけど、それを同一のものと錯覚させることが、日本の教育や躾のなかで当たり前のことのように行なわれている。

だから、しっかりと教育を受けてきた人ほど、古賀氏のように”事を荒立てる”ことよりも、”協調しながらうまくとりまとめる”ことの方に重きを置いて現実に合わせていることが、社会にとっても、多くの人に自分を気にいっていただくうえでもいいことだと考える。

だからわりと簡単に、「それもやむを得ないなあ」というポジションに陥りやすい。「それもやむを得ないなあ」と思う人がどんどん増えて、「それは違うんじゃないか」という人が白い目で見られて、排除されたり、「テレビで発言できることの有り難さがわかっていない」などと、内容そのものとは関係ないところで非難されたりするうちに、ある方向の逆戻りがきかない道に、深く入り込んでいく。

もちろん、今は、既存の放送局などの旧メディアだけでなく、インターネットを通じた様々な情報伝達の方法があるので、昔ほど一色に染まらないだろうけれど、いくらインターネットであっても、広告収入で運営されたり、数の論理が優先されたりすると、構造的同じようなことになる可能性が高い。

だから、環境がどうであれ、ガンジーの言葉のように、世界によって自分を変えられないために、ほとんど無意味であるが、それでもやるべきことをやらなければならない。

”無意味かもしれないけれど、それでもやらねばならないこと”の一つは、メディアでどういう情報が流れているとか、誰がどう言っているとかに関係なく、社会で起こっていることを自分自身の問題として引き受けて、自分の頭で考え続けることなのではないか。

影響力があるとかないとかつまらない計算をして、顔の見えない人達の”数”ばかり気にかけるのではなく、数十年後から振り返った時に、今自分が取り組んだり関わっていることが、いったいどういう意義を持つのか、考え続けることなのではないか。

そのように自分に言い聞かせて、自分のやるべきことをしっかりと見定めて、やらなければならないなあ、世界を変えるためではなく世界に変えられない為に、と思う今日この頃。 変わりゆく世界への備え 4.18 風の旅人 編集長 佐伯剛より

2015年 卒業生の保護者の方から

石坂塾長、大本先生には長い間大変お世話に
ありがとうございました。
小2の終り 娘の国語力に不安を感じた時
創設でステップゼミナルの石坂塾長の記事を読み
塾長の言葉に共感を持ち 4月から漢検クラブに
入塾し、7年間通いましたが、娘が楽しく通ったのは
先生方のおかげでした。
塾の教育方針や先生方の生徒への係わり方は
親の私にとってとても理想で、卒業生の方々が
よく塾に顔を出されるのもとても理解できます。
そんなステップゼミナルは娘にとって癒しの場
だったので長時間の勉強でも苦にならず
むしろ入試間近でギリギリの時期でも楽しく通い
7年間一度も「行きたくない」とおぼしき事はありません。
志望校も娘にとって高い望みではありましたが
目標に向かって努力する大切さを教えたおかげで
最後まで諦めず、親子共々満足の結果を
残す事ができました。
勉強はもちろんですが、失敗をおそれず何事にも
立ち向かう勇気を教えた事にも感謝しています。
本当にありがとうございました。